

西日本放送

活動名	RNC 子ども未来プロジェクト 2025
実施期間	令和 7 年 7 月～ 10 月
実施回数	会場 4 回

【事業実施の成果・課題】

今年度も高松市教育委員会（教育局学校教育課）に学校を選定して頂き、推薦のあった 3 校で実施しました。その中には、高松市沖の男木島の小学校もあり、2014 年以来 11 年ぶりの訪問となりました。当日参加した児童はわずか 4 人。見守る先生の方が人数の多い「読み聞かせ」となりましたが、子どもたちも先生も目を輝かせながらアナウンサーの話に耳を傾けて、大きな声を出し、熱心に授業に参加していました。また、他の小学校でも、アナウンサーならではの授業を通し、児童が朗読や声を出すことに興味を持つ姿が見受けられ、大変好評でした。

地元放送局として、この読み聞かせ事業は、地域貢献につながる大切なコンテンツのひとつであり、今後も真摯に取り組んでいきたいと考えております。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<第 2 回 下笠居小学校 畠山伶アナウンサー>

私は下笠居小学校 5 年生の読み聞かせを担当させていただきました。子どもたちの明るさに元気をもらい、また普段 RNC を視聴してくれている人の数に驚きました。もっと子どもたちにテレビ・RNC を好きになって欲しい！その想いで最後まで全力で魅力を伝えきりました。印象的だったのは、スポーツ実況を披露した場面です。サヨナラホームランで試合が決したシーンを実況した時、教室中が活気に溢れていました。みんなが笑顔になった瞬間でした。子どもたちも普段見られないアナウンサーの様子ですが、私たちアナウンサーにとっても貴重な経験で、伝え手と視聴者の「一体感」を感じました。テレビ離れが進んでいるご時世ではありますが、昔も今も変わらない放送局の意義や魅力が感じられた読み聞かせの体験でした。アナウンサーでなくても自分の気持ちをしっかり伝えることは必要な力であり、読み聞かせ授業が子どもたちにとって将来に繋がる時間になっていれば幸いです。

<第 2 回 下笠居小学校 上田彩乃アナウンサー>

授業が始まる前から非常に元気いっぱいのクラスでした。アナウンサーの仕事の説明で、実際にニュースと天気予報を読む場面では、しっかりと耳を傾けてくれた一方で、実況の場面では野球経験がある児童を巻き込んだことで大いに盛り上がり、メリハリをもってその状況に合わせた空気感を作ってくれたので非常にやりやすかったです。

読み聞かせでは、やかましい音や、やかましい王子の表現方法に悩むこともありましたが児童たちの反応がとても良く、本番が一番なりきって取り組むことができました。一緒に早口言葉をする場面でも、積極的に手を挙げて参加してくれたおかげで、盛り上がったと思います。

30 人ほどの規模だったので、全員と近い距離で授業ができ、私が児童からたくさんの元気をもらえました。引き続き、来年以降もこういった児童との交流の場に参加していきたいです。

<第 3 回 林小学校 中條加菜アナウンサー>

私は小学 6 年生を対象にした読み聞かせ事業に参加し、教科書にも載っている題材「模型のまち」を朗読しました。戦争や原爆を題材にしたもので、主人公の心情や場面が「色」を使って繊細に描かれており、感情の揺れや主人公の成長を声だけで表現することの難しさを実感しました。児童たちが実際に学習した題材ということで緊張もありましたが、児童たちが最後まで真剣に朗読を聞いてくれたり、「音読と違った」という感想が聞かれたりと、非常にやりがいを感じました。

また、早口言葉や発声練習は学年全員で取り組み、児童たちが積極的に参加する姿が見られました。「誰が一番長く声を出せるかな？」とゲーム形式で問いかけることで、児童一人ひとりのやる気に繋がったのではないかと思います。この読み聞かせ事業を通して、物語を深く味わうことの魅力や、声を出す楽しさを知るきっかけになれば嬉しいです。

<第 3 回 林小学校 吉野将司アナウンサー>

6 年生 5 クラス・169 人という人数で、体育館という広い空間で読み聞かせを行った経験は初めてで、大変貴重な経験になりました。マイクを使うのか直接声で届けるのか、会場のどこに向かって声を届ける意識で話すのか、試行錯誤をしながら臨みました。私は朗読に加えてスポーツ実況、腹式呼吸と発声練習の実演を担当しました。スポーツ実況の実演では、担任の先生に事前に名前を聞き、現場でサッカー経験者に挙手をしてもらい名前を聞いて、周囲を巻き込みながら彼らが輝くような実況を心がけました。朗読した「模型のまち」は、原爆が落とされた街・広島現在の現在と当時を行き交いながら物語が展開されていく作品でした。登場人物のセリフひとつをとっても解釈が分かれるなかで、読み手 3 人の間で細かく読み合わせを行い、解釈を統一した状態で本番を迎えました。児童の皆さんの国語の授業理解の一助になっていれば大変嬉しく思います。読み聞かせを務めるのは 2 度目ですが、毎回新たな発見があり、何よりその場で双方向のやり取りをして、間近でリアクションを貰えることが大きなやり甲斐です。機会があれば是非またチャレンジしたいです。

<第 4 回 男木小学校 熊木創平アナウンサー>

かけがえのない時間となりました。高松港からフェリーで約 40 分、瀬戸内海に浮かぶ男木島の男木小学校へ伺いました。私自身、読み聞かせの仕事は初めて。「半人前の自分が人様に教えるなんて…」と不安もありましたが、4 人の児童がキラキラした目で私たちを迎えてくれて一気に安心しました。絵本「モチモチの木」の「じさま」を担当しましたが、表現方法が一つではないので練習の段階から勉強になりました。そして読み聞かせ以外にもスポーツ実況を披露したり、一緒に声を出したり充実した時間になりました。子どもたちは私たちの話を素直に聞いて実践しようとしてくれて、短い時間の中で成長する姿に思わず感動しました。「テレビ離れ」と言われて久しいですが、地元の子どもたちにとって身近なアナウンサーであり続けたいと強く感じました。常にプロとしての技術を磨き、地域の皆さんの役に立てよう精進していきたいと思います。

<第4回 男木小学校 難波歩由未アナウンサー>

本の読み聞かせの際には、目を輝かせて真剣に耳を傾け、発声練習の際には積極的に大きい声を出し、児童の皆さんも先生方も参加して下さったことが印象に残っています。

私が小学生の時には、文字の読み書きを習うことはあっても発声の仕方などは習ったことがなかったと記憶しているので、今回の授業が児童の皆さんにとって将来役に立つことがあればという気持ちでした。また、テレビについて聞いてみると、多くの児童が普段テレビを見ないと言っているのを聞き、この授業をきっかけにテレビに興味を持ち、ニュースを通して香川や岡山のことをさらに知る機会が増えればと願っています。最後に、男木小学校を初めて訪れ、島を歩いたことで、島民の皆さんが家族のように子どもたちを見守る姿、少人数の学校だからこそ先生と児童の距離の近さ、先生も共に学ぶという姿勢にとっても心温まり、改めて男木島の良さを実感する貴重な機会となりました。

<第2～4回 下笠居・林・男木小学校 鴨居真理子アナウンサー>

小学校で実施した本授業では、児童が意欲的に参加し、特に原稿読みや読み聞かせの場面では、どの児童も真剣に耳を傾け、言葉を丁寧に受け取ろうとしている姿勢が印象的でした。

発声練習や早口言葉では、日本語の音の出し方や声の使い方を体感的に学ぶことで、児童の表情が徐々に明るくなり、最後は、しっかり自信を持って声を出す変化が見られました。後日、担当教員からも児童が以前より積極的に発言するようになり、前向きな態度が育まれたとの報告を受け、授業の効果を確認することができて嬉しく感じています。

読み聞かせに加えて、日本語の音声教育を実践できるのは、アナウンサーだからこそ。現場の先生からも指導のヒントを得たとおっしゃっていただきます。また、毎回、若手アナウンサーにとっても児童や現場の先生方の率直な反応や温かい声援は日頃の収録現場では得られない貴重な経験となり、職務への新たな励みとなっています。本事業は、児童や現場の先生にとって、また、アナウンサーや局にとっても、地域貢献でもあり、地域とのふれあいを生む、大変、有意義な事業であると感謝しています。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

第4回 男木小学校

<教員の感想>

- ・小さな島の学校に、アナウンサーが3人も来てくださり、ぜひたくで嬉しい体験ができた。
- ・姿勢、口形、腹式呼吸など、勉強になった。自分の授業でも生かしたい。
- ・少人数なので、先生たちも含め、全員が早口言葉に挑戦するなど、参加型のスタイルが良かった。
- ・プロの方に読み聞かせをしていただき、感動。あんなにも声に表情があるなんて驚きでした。

<子どもの感想>

- ・早口ことばが楽しかったです。なんばアナウンサーの早口ことばが早すぎてびっくりしました。
- ・自分の名前を入れて、サッカー中継してくれてうれしかったです。
- ・「モチモチの木」の読み聞かせが心にのこりました。あんなふうに読めたらいいなと思いました。